



「研修便り」は、高知市立学校教職員研修の成果・内容の共有、研究所から発信する情報の提供を目的として、発行していきます。

## 2年経験者研修 課題等研修

平成26年8月27日（水）実施  
対象：高知市立小・中学校に勤務する2年経験者教員

目的

初任者研修をもとに、教員として自覚と経験に応じた授業及び学級経営等の指導力と実践力の向上を図るとともに、教員としての資質・能力の向上を図る。

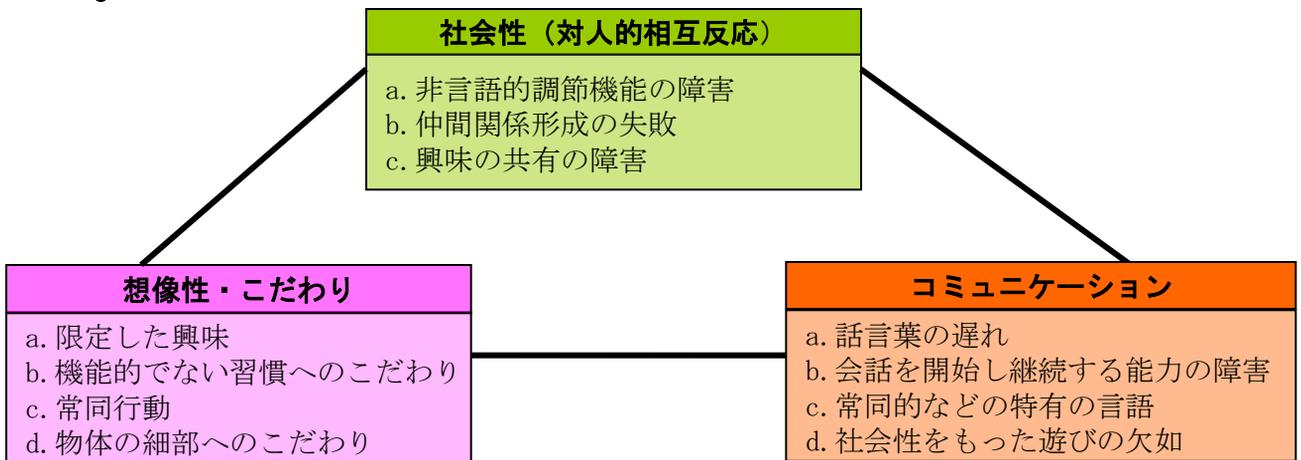
「特別支援教育について」～特性に応じた指導の枠組み～

講師：高知大学教育学部 鈴木 恵太 講師

### 発達障害の定義（自閉症、アスペルガー症候群、その他の広汎性発達障害）

- 自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害その他これに類する脳機能障害であってその症状が通常低年齢において発現するもの（発達障害者支援法第二条，平成16年）
- 第二条の政令に定める障害は、脳機能の障害であってその症状が通常低年齢において発現するもののうち、言語の障害、協調運動の障害その他の厚生労働省令で定める障害とする。（発達障害者支援法施行令第百五十号，平成17年）
- 心理的発達の障害並びに行動および情緒の障害（自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害、言語の障害及び協調運動の障害を除く）とする（厚生労働省令第八十一号，平成17年）

### 1 自閉症スペクトラム障害(ASD, Autism Spectrum Disorder)とは



### ASDの特徴

得意な面	苦手な面
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 目で見て理解</li><li>・ 体験したことを記憶</li><li>・ 具体的で明確なことを理解</li><li>・ 興味のあることに集中</li><li>・ 細かい所に集中</li><li>・ 行為の正確性</li><li>・ すごい才能を発揮することもある（サヴェン症候群）</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ ことばを耳で聞いて理解</li><li>・ 体験していないことを想像</li><li>・ 興味の幅が狭い</li><li>・ 全体をまとめて理解</li><li>・ 応用や手抜き</li><li>・ 感覚が過敏すぎたり鈍感すぎたりということもある</li></ul>



## 2 注意欠陥多動性障害(ADHD, Attention Deficit Hyperactivity Disorder)とは

**不注意**

- ・ 注意の持続が難しい
- ・ 注意が散漫 (転導性)
- ・ 必要なものをなくす
- ・ すぐ忘れる
- ・ 順序立てることが難しい
- ・ 精神努力続かず避ける

**多動性-衝動性**

- ・ そわそわ落ち着かない
- ・ 離席行動がある
- ・ じっとしていない・しゃべりすぎる
- ・ 結果を考えず突発的に行動



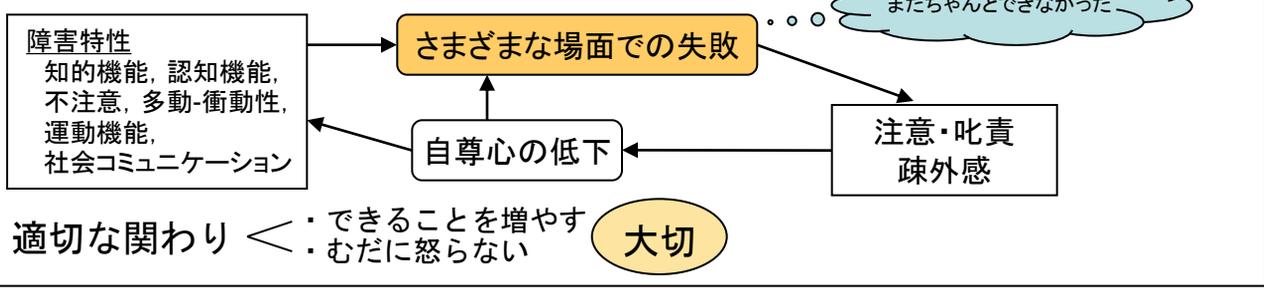
## 3 学習障害(LD, Learning Disabilities)とは

● 文部科学省〈平成11年〉の定義  
 全般的な知的発達に遅れはないが、聞く、話す、読む、書く、計算する又は推論する能力のうち特定のものの習慣に著しい困難を示す様々な状態をさすものである。

- ・ マス目に字が書けない
- ・ まっすぐ走れない (シャトルラン)
- ・ 極端に不器用
- ・ 定規で線を引けない

協調運動  
 行動  
 言語  
 情緒

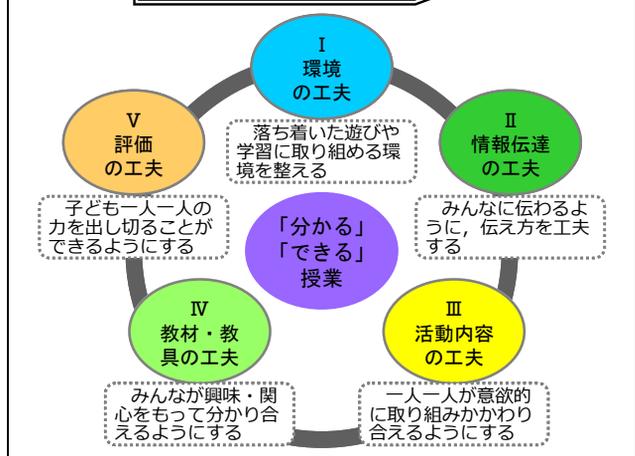
### 特性に応じた指導とは



### 例えば「課題」場面での工夫

- “見ため” のハードルを下げるための工夫
  - ・ 1枚のプリントの情報量を調整
  - ・ やり方 (手順) が明確になるための方略
- 指示の出し方の工夫
  - ・ 全体像の提示を前提として、小さい目標を蓄積していくタイプの指示 (スモールステップ)
  - ・ 忘れてもいいようにアクセス容易な手がかりを提示 (手順の支援)

### 授業づくりのポイント



### 受講者の感想

- ・ 「行動の結果に対して注意する」のではなく、「その行動の原因を探り、そうならないような手立て」を考えることは勉強になりました。
- ・ 特性を理解したうえで、存在や得意な能力を認め、自立に向けた力を伸ばしていけるような手立てが、学校教育のあらゆる場面において必要だと感じた。
- ・ 支援において大切なことは、「苦手なことを理解して得意なことを生かしていくこと」だと学んだ。児童が問題行動をとった時には、障害を理由にせず、そうせざるを得ない状況を教師がつくっていると捉え、改善に努めることが必要である。そうした視点を今後の教育活動に生かしていきたい。